

「察する力」

スイッチON!! 去年より明らかに今年の花粉の威力はすごいな～、頭がボーッとする。。花粉の時期を意識すると花粉症になるので、なるべく感じないようにして過ごしていましたが、がつつり今年は発症です。。せっかくマスクが取れるようになったのに、べつの意味で外せない。。マスク離れの予行練習としておきましょう。。

さて、仕事していたり日常において「察して」ほしいという場面は多々あります。簡単な例だと、電車での席の譲り合いとか、エレベーターでの扉が閉まる瞬間とか。

僕はツキや運を引き寄せる為には、「察する力」というのも最も大切な力の一つだと思う。仕事の中で、マニュアルやルールを重視する場面で、思考の多くを集中させている場合が多い。つまり、「察する」という「感じる能力」をあまり使わない人が多い。とくに、表情が見えないマスクの中の顔から読み取るのはより高度だと思う。

「察する力」を「思いやり」と言うとわかりやすいかもしれない。

これは、相手の立場に立って考えることができるというような優しい力のこと。しかし、「察する力」は、そのような優しい思いやりだけではない。「察する力」のある人は、表側の見える所だけでなく、見えないところも感じる事ができる。つまり、言葉にしなくても、大切なことや、必要なことは感じる事ができる。よって、一流の世界では、このような力が求められます。

だから、「察する力」がない人は、よい仕事をするメンバーにはなれないということ。そして、この「察する力」は、記憶と体験の集積で身につく。まさに、介護サービスや対人サービスは「察する力」が必要である。表側、裏側を感じ受け我々は、サービスへと表現を変える。

その際に、僕はよく相手への意向を察してほしいときの表現で、ラジオのチューニングに例える。

FMで喋ってるのか、AMで喋っているのか。僕たちはアンテナを伸ばしてはいるが、その周波数をしっかり合わせて初めて察する事ができる。そのために日々、自分のアンテナをチューニングして察し続けたいといけない。

自分のアンテナの周波数に誰かが合わせてくれると考えたら、それは「マイペース」ということ。マイペースとは仕事では「怠け者」と同義語である。それを言われないようにあなたは、日々相手のためにチューニングする力を鍛えなければならない。

